

“日本一元気な町づくり”
ふる里復興・創生「躍進の年」
—いのちを守り、人を活かし、未来をつくる町—



遠藤町長

令和3年第2回広野町議会定例会が6月10日から11日までの会期で開催されました。一般質問を経て議案審議がなされ、すべての議案が原案どおり可決されました。

会期初日には、遠藤町長が第1回定例会（3月開催）以降の町政経過報告を行いました。町民の皆さまにお伝えしたいことがたくさん盛り込まれておりますので、主の内容の抜粋を掲載します。

新型コロナウイルス感染症対策本部

3月26日、町内において新型コロナウイルス感染症陽性患者5例目を確認され、同日及び翌日において北郷議長ご臨席の下、対策本部会議を開催し、陽性患者における経過、学校、公共施設並びにイベント等の対応について現況を精査し、防災行政無線を通じ、通常通り事業を行う旨を住民の皆さまに周知しました。

4月28日、29日、新型コロナウイルス感染症陽性患者6例目、7例目が町内において確認され、議長ご臨席の下、新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催しました。陽性患者6例目及び7例目における経過、学校、公共施設並びにイベント等の対応について現況を精査し、防災行政無線を通じ、通常通り事業を行うこと、新しい生活様式の協力について住民の皆さまに周知しました。

5月14日、県新型コロナウイルス感染症対策本部会議を経て、知事から新型コロナウイルス感染症非常事態宣言が発令され、特別措置法に基づく「不要不急の外出自粛」、「酒類を提供する飲食店の営業時間短縮要

請」の緊急特別対策が県内全域に示されました。これを受け、新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催し、防災行政無線を通じ、県からの要請への協力についてお願いしました。

5月26日、27日、東京電力ホールディングス株式会社福島復興本拠地、株式会社JERA広野火力発電所、広野IGCCパワーカーン株式会社並びに広野町安心安全ネットワーク会議に参加するゼネコン企業に対し、町における新型コロナウイルスワクチン接種及びワクチンの住所地外接種、ワクチンの職域接種について説明を行いました。情報共有をしました。



馬場医院でのワクチン接種の様子

5月27日、福島県による新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による緊急特別対策及び非常事態宣言の発令に伴い、町内の中小企業者等の売上が落ち込み、経営に大きな影響を受けた

の苗木の贈呈を行いました。約800名の町民の方から応募があり、一本一本手渡しをしました。「東北に春を告げる町ひろの」の温暖な街並みの景観形成に取り組んでいきます。



町制施行80周年を記念し、みかんの苗を配布する遠藤町長

4月より、町民誰もが安心して安全に生活できるまちづくりのため、日常生活における移動手段に不安を感じている高齢者等を対象に「広野町タクシー利用料金助成事業」を開始しました。町内での利用に限り1枚500円券、最大で24枚のタクシー券を助成するもので、町民バスと併用し利用することで、高齢者等の利便性が向上し、移動手段の不安解消に取り組むものです。6月1日現在107名の方が申請をしており、延べ151枚の利用実績が出ております。



多数の来賓が臨席した町制施行80周年記念式典

5月8日、9日の両日、広野町公民館大会議室において住民説明会を地区別に計4回開催しました。令和3年度における町の重点事業と新型コロナウイルスワクチン接種、令和元年度大雨災害の復旧状況について説明を行いました。町民の皆さまからいただいた貴重なご意見を施策に反映し取り組んでいきます。

復興企画課

3月25日、東京オリンピックパラリンピックの聖火リレーランドスタートがJヴィレッジにおいて執り行われました。町内ではふたば未来学園から広野駅東口広場までの区間において、聖火リレーが行われました。広野駅東口広場でのイベントでは議員の皆さまご臨席のもと、元バレーボール日本代表齋藤信治選手、いわきFCで活躍されたJFAアカデミー福島出身の平澤俊輔選手、箱根駅伝などで活躍している早稲田大学に縁のあるアスリートによるトークショーを行いました。

3月26日、平成28年3月5日に開設した公設商業施設「ひろのてらす」は、震災から10年を



広野町に縁のあるアスリートによるトークショーの様子

迎える本年に開設5周年を迎え、記念式典を行いました。買い物をはじめ、多くの皆さまにご支援とご愛顧をいただき、町民の生活を支える生活インフラとして、次の10年への展望を掲げ、地域に親しまれる施設となるよう運営してまいります。

5月17日、原子力災害による緊急時避難準備区域に指定されていた広野町、南相馬市、田村市、川内村の4市町村は、福島復興局において、平沢勝栄復興大臣並びに江島潔原子力災害現地対策本部長に対し、4市町村合同で要望活動を実施しました。いまだ復興道半ばの観点から、令和4年度に向けて医療費免除や高速道路無料化措置など、福島第一原発事故に伴う支援の継続を要望し、住民の生活が必要であることを強く訴えま

総務課

3月21日、22日の両日、町制施行80周年を記念し、広野町中央体育館前において、配布を希望する町民の皆さまに、みかん

ことを踏まえ、町内の全業種の中小企業者等を対象とし、一定要件のもと、営業施設の家賃等について支援することを目的とした広野町新型コロナウイルス対策中小企業者等支援事業補助制度を開始しました。補助金の申請受付は、広野町商工会において7月1日から9月30日まで実施いたします。広野町社会福祉協議会の高齢者を対象とした生きがい事業（ミニデイ）において、利用時間を午前中に短縮、昼食は自宅で摂るなどの対応を行っております。訪問介護及び通所介護サービスの新規利用者は、町独自事業のPCR検査受検後に利用を開始する対応とするなど、職員を含め徹底した感染症対策を講じています。

5月26日、浜通り地域において創造的復興の中核拠点と期待されている国際教育研究拠点の整備に関し、復興庁、福島県と復興庁開出統括官のもとオンラインで意見交換を行いました。国際教育研究拠点が担う地域人材の育成として、早稲田大学、東日本国際大学、福島高専、東京大学との協定に基づく連携が、町立小・中学校や県立ふたば未来学園中高一貫校における教育環境の充実から、双葉地方、浜通りへ広域的に福島復興の発展に向けて、機能が発揮されることを要請しました。5月27日、「復興知」による協定を締結している早稲田大学において、「環境問題と持続可能な社会」をテーマとするオンライン講座の講師を務め、オンラインにより約40名の学生が参加のもと、「福島復興10年の歩みと浜通り地域社会の将来像」と題した講義を行いました。意見交換では、現在の福島浜通り地域に対するイメージや10年間の復興事業の成果、住民との信頼関係性など、多岐にわたって学生らしい率直な議論を交わしました。5月26日から5月28日、OECDチャンピオンメイヤーズ第